

月

坂井祐太

高速道路の上を走る車の中
車窓から空を見上げると
ぽつかり 月が浮かんでいた
ただの月――

でもそれをぼんやり眺めていると
ふと思い出した

父さんが昔 教えてくれた

「月はチーズでできているんだぞ」
そうだチーズを食べに月へ行こう
車はどんどんスピードを上げていく
前へ 前へ 突き進む

そして ふわりと宙に浮かんだ

車は離陸した

車はロケットとなりぐんぐん上昇する
月にはどんなチーズがあるのだろう

モツツアレラ、エメンタールにマスカルポーネ
カマンベールにゴルゴンゾーラ、ブルーチーズとリコッタだ
どんなチーズも楽しみさ

ロケットは月に突き刺さり着陸した

僕は月へ降り立ち
さつそく月を食べた
月はグリーンチーズの味がした
やわらかくて 少しだつけ
それでいて やさしい味

僕は一生懸命 月を削つて

クラッカーにのせ

ピザにのせ

グラタンにかけて

ひたすら食べた

月の穴から

ネズミたちがぞろぞろと出てきた

たくさんのネズミが

チーズを運んで お祭り騒ぎ

それをぼくはチーズを食べながら見ていると

ネズミたちに見つかった

ネズミはぼくを取り囲み激しく怒った

チーズを取られると思つたらしい

いっぱいあるからいいじゃないかと思つながらも
ぼくは慌ててロケットに乗り込んだ

ネズミはロケットにかじりつく

ロケットは地球に向かつて飛び出した

ふつと スピードが落ちた

窓の外には

高速道路の街灯が流れていた

運転席の父さんが

「ほら、もうすぐ着くぞ」と笑つた

車にはチーズのにおいが漂い

口の中に残るチーズの味を

忘れられずにいた